

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300406		
法人名	(有)ハートコネク		
事業所名	グループホーム さくらの樹		
所在地	佐賀県鳥栖市弥生が丘4丁目22番		
自己評価作成日	平成26年10月25日	評価結果市町村受理日	平成27年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成26年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつも明るく笑顔で家庭的なあたたかい場所である事を目指しています。利用者様はもちろんご家族の方、たくさんの方々に居心地のいい環境を提供出来るように心掛けています。また、会話、観察、記録にも重点を置き、チームで常に最善のケアが出来るように努めています。様々な行事も恒例となっており、利用者様の重度化もみられていますが、出来る限りランチ外出や季節のお花見外出も続けています。誕生日会、季節の行事等にもたくさんのボランティアの方、地域の方にも来訪頂き、皆さんの楽しみの一つになっています。毎日の食事朝食は一汁二菜、昼食夕食は一汁三菜と旬の野菜を取り入れ彩りも工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の新興住宅地に位置する平屋造りのグループホームである。周辺には病院や公園、保育園、学校が点在し、国道や駅などもあるため交通の利便性も良い。近隣の住民からも良く知られ、日頃より積極的な交流が図られており、行事、避難訓練、会議などへの出席が見られている。外出や行事などたくさんの写真をいつでも見られるように工夫し、個室やリビングにたくさん飾られており、会話の絶えない楽しい環境、家庭的な場所を作り上げられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「皆さんと共につくる 楽しいわが家 明るい家族」の理念を掲げています。リビング入口の目に付く場所に掲げ、いつでも意識出来るようにしています。また、全体会議でも管理者や職員全員で読み上げ確認し合い、日々の業務の実践につながっています。	会議の中で理念を読み上げている。普段からも会話を多く持って家族のように接するよう心がけ、日々の業務に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方の誕生日会、敬老会、クリスマス会等の行事への参加や小学校の交流授業の受け入れも積極的に行い、また、地域の夏祭りの見学に出掛けたりと、地域の一員として交流出来るように日々努めています。	ボランティアや小学校行事など数多くの交流があり、日頃より近隣住民、地域との交流が行われている。協力関係も築かれており、住民からの差し入れや相談など、地域の一員として交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の様々な訪問も積極的に受け入れ、また、地域の「こども110番の家」でもあり、いつでも開放的な施設であるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で、ご家族代表、区長他、地域の方の代表、主治医、包括の方、等にご参加頂き、様々な意見や助言情報を頂き、サービスの向上に努めています。	2ヶ月に1回開催されている。家族、地域の代表者など多数の参加があり、いろいろな議題を出して意見交換がなされている。写真付きの資料なども作成に工夫がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課やグループホーム協議会には必要に応じて相談したり助言を頂いたりして協力関係が出来ています。	日頃より市の担当者、グループホーム連絡協議会などと気軽に相談できる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関や全ての出入り口は開放しています。職員の連携でさりげなく見守りを行い、利用者様はのびのびと生活されています。身体拘束のマニュアルも作成し内容についても全ての職員が十分理解できており、身体拘束につながりそうな事は十分検討し合う様にしています。	身体拘束について日頃より意識しながら入居者と接している。身体拘束廃止にのため職員同士のアイデアを取り入れるなど、日々の申し送りにより伝えられている。現在までに玄関の施錠も含め拘束は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	責任者会議や全体会議でも学び話し合う機会を持ち、さらに見過ごされることの無いようにいつも職員同士で注意し合うように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、安心サポートの利用をされている方はおられますが、今後利用になる事も踏まえてさらに理解を深めていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は丁寧にゆっくりと、不安疑問はないかを確認しながら行うことも心掛けています。料金改定の場合も文書はもちろん口頭での説明も行いました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族とも日常的に会話を多く持つように努めています。意見を出し安い雰囲気や様々なお話の中で気持ちを汲み取る努力もしています。	面会に、毎日来られている家族や、行事にも家族は多数参加されている。本人・家族との良好な関係作りに努められている。玄関に意見箱も設置され、意見、要望は常に聞き取れることを心がけられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り事項を確認すると共に、様々な意見や提案を聞き事に努めています。また、意見や検討したい事案があれば協議検討できるように『ケース検討議案書』を準備しており、責任者会議や全体会議で話し合う様にしています。	毎日の申し送りや毎月の全体会議、責任者会議などを通して、職員からの意見や提案を聞くよう努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの特技を活かせるようなシフト体制や無理なく勤務出来るように出来る限り勤務希望にも添えるように努めています。年に2回は代表者との食事会、昇給や賞与も給与規定に基づき充実しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修も勤務扱いにする事でより参加しやすい環境になっています。内部的にもシフトの工夫で職員同士での資質向上に努め、毎月の全体会議でも様々な議題を設け、常に学べる体制ができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会し、横の連絡体制も出ています。様々な研修会を通して交流し、得た情報や学んだことを全体会議で発表して、サービスの質の向上にも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居され間もなくは、特にご家族の協力を得ながら、まずはご本人を知ることから始め、積極的な関係作りに努めています。その中でご本人に必要な支援を見極め、早期に安心して生活が出来る様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居の相談の段階でもご本人ご家族の状況や要望、様々な気持ちを受け止め、早期に安心と信頼関係が出来るように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な方面の専門家から情報を得たり、利用を検討する事も行っています。また、今後予想される状況についても十分に視野に入れた対応を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩でもある利用者様には教えて頂く事も多く、日々の生活の中でも役割を持って頂いています。また、一緒に傍で過ごし、いつも声掛けを行う事で利用者様のいろいろな気持ちを感じていけるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人をご家族と共に支えていけるように、いろいろと相談をさせて頂いています。外出や行事にもご参加も頂き、ご協力もさせて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はもちろん馴染みの方々の面会も多く、いつでもどなたでも来訪出来る様な環境を作り、面会時はゆっくりと過ごして頂きご本人の近況を報告する事でさらに深くご本人の気持ちを理解して頂く事が出来ています。	同じ仕事をしていた方や、近所の方など家族以外の方の面会も多く、写真などで普段の様子をお話するなど、話のきっかけづくりを行い、馴染みの関係の継続にも努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの性格や身体の状態を把握して居場所を作り、また職員が利用者様同士の関係作りの橋渡しとなる様にきっかけ作りの声掛けにも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族や関係者の方にこちらから電話で近況をお尋ねしたり、ご家族さんにはボランティアで来訪して頂く等、関係の継続に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の勝手な思いの押し付けにならない様に、お話された事や表情、わずかな反応からでもご本人の気持ちを汲み取り、記録に残していつも検討していけるようにしています。	会話や行動など、その時の状況に応じて記録を取られており、わずかな反応から本人の気持ちをくみ取り、思いや意向の把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時には出来るだけ多くの情報を得られるように、ご家族や関係者の方々に聞き取りを行い、継続した生活と環境の変化によるダメージが最小限ですむように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時系列式の個人記録を使用して、勤務者全員が記入するようにして、利用者様の一日の生活内容、ケア内容、気持ちの変化も記入しており、全職員で現状の把握と問題があれば早期に解決できるよう申し送りやケアの統一も行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のホーム便りや面会時には近況を報告し、ご意見やご要望もお尋ねしています。様々な関連機関や職員とも申し送りや責任者会議、全体会議でも話し合いより良く生活出来るような介護計画作成に努めています。	本人・家族や関係者からの意見と、スタッフが入居者一人ひとりの気づきを記載し、会議により話し合っただけで介護計画作成がなされている。ケア内容を記録用紙に細やかに記入できるよう工夫され、アセスメントや評価に繋がられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録には勤務者全員が利用者様それぞれの気づき記入をする事で、情報を共有し日々のケアや介護計画に活かす事が出来ています。また、1人の職員が様々な時間帯に勤務して利用者様の時間帯での変化にも気付けるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズにいつでも柔軟に対応できるように、職員の配置にゆとりを持たせています。ご本人ご家族とも相談して他職種からの支援も取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の知人、昔からの友人、町内の保育園や小学校、近隣のボランティアさん等、様々な方面からの訪問や支援も頂いており、利用者様の楽しみの一つにもなっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の訪問診療は月に1回個別診療の日があり、検査や説明、相談もゆっくり出来る体制でご本人ご家族にも安心して頂いています。	本人・家族の希望のかかりつけ医のもとで、適切な医療が受けられるように支援されている。協力医療機関も近くにあり、24時間体制での往診など、連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師や訪問診療の看護師と普段から情報の共有を行い、些細な変化や気づきを早目に報告連絡をする事で、訪問診療日に適切な検査等を出来るようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員は出来る限り面会し、他の利用者様からのメッセージを届ける等して安心して入院して頂いていました。また、早期退院の為に入院中はもちろん、日頃からソーシャルワーカーの方との情報の交換にも努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時には施設で可能な終末期ケアの説明とご本人ご家族の意向まで確認しています。早期より希望に添える生活を送れるように、終末期と主治医が判断した場合は納得出来る最期を迎えられるように何度も話し合う機会を設け、情報を共有してチームで支援出来るように努めています。	入居時には重度化や看取りについて説明が行われている。かかりつけ医、協力医療機関との連携体制もあり、都度、本人・家族と話し合いを行い、チームで支援できるよう、取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急士による心肺蘇生術、AED操作の講習や業者の指導による消火器講習も職員全員が毎回実習出来るように時間も十分とっています。また、各自でいつでも確認出来るように対応マニュアルも準備しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご近所の方のご厚意により緊急時用に近隣の電話連絡網を頂き、年に2回の避難訓練にもご参加頂き、協力の体制は出来ています。訓練後の会議でも消火栓の確認や避難経路や場所等についても地域の方の指導を頂いています。	避難訓練が定期的に行われて、マニュアルも細やかに作られている。訓練には地域の消防署員、近隣住民の参加があり、火災やその他の災害等についても指導や助言を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りプライバシーを損ねない様に毎月の全体会議では場面場面での具体的な声掛けについて学び、実践出来るようにしています。常に人生の大先輩として1人1人の人格の尊重した声掛け対応を気掛けています。	入居者の個別の対応を全体で話し合い、声掛けの方法など意識して実践できるように心がけている。日常的にスタッフ同士が気づき合い、実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた優しい雰囲気の中で、何気ない日常の会話、表情等でも思いや希望を表現できるように努めています。また、日頃からの様子や会話も記録に残し、ケアに活かしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはありますが、お一人お一人の以前からの生活のペースや現在の状態に応じてその人らしく生活してもらう様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭そりやお化粧等の整容は、毎朝行う事で一日のスタートを感じて頂いています。出来る限り衣類もご本人で選んでもらえるような声掛けや選んでいる雰囲気を味わってもらう様に声掛けの工夫もしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて出来ることを手伝って頂いたり、出来ない方でもキッチン周りで声掛けしながら調理や片づけを行う事で、食事作りに参加している気分も味わって頂いています。	あらかじめ決めている献立はあるが、食べたいものなど、その都度、入居者の要望に応じられている。調理や片づけなど一緒に行われたり、見た目にも美しい食器が使われるなど、食事が楽しめるよう配慮されている。外食も定期的に近隣の飲食店を利用され、馴染みの関係も作られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食後、水分摂取量は毎晩チェックして、利用者様の状態の把握に努めています。食事形態も個々の状態に合わせてミキサーやトロミを検討したり、水分食事が摂りにくい方にはボカリや栄養補助食品の利用も行っています。テーブルに個人用の水筒と湯飲みを準備して、いつでも水分摂取出来る様にもしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様に応じた口腔ケアを行っています。義歯は定期的に洗浄液に浸漬して清潔保持にも努めており、定期的な歯科診療により口腔内のチェックや清掃を受けておられる方もいらっしゃいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を基本として頂いていません。日中夜間とも必要以上にパットを使用しない様にし、排泄チェック表を活用して個人個人の排泄パターンや1日の排尿排便の回数も把握しています。	チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握され、自然な排泄を促されている。二人介助等により重度の方でもトイレへ誘導されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段の食事には旬の野菜や繊維質の多い食材を取り入れています。また、水分は手の届く所に個人の水筒と湯飲みを準備しており、ご自分で飲まれたり、介助して飲んで頂いたり、いつでも気軽に水分が摂れるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否の方の対応として、拒否の背景を探り、受け入れて頂けるように様々なパターンや状況で声掛けを行いました。応じて下さる時間帯に清拭、足浴などから始め、現在は随分拒否が少なくなりました。	入浴の拒否がある場合でも、工夫しながら入浴できるように取り組まれている。本人の希望の時間など細かな対応がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付きが良くない方には入床前に足浴を実施したり、また、朝日を浴びることで体内時計をリセットし、昼夜逆転しないように夕日を浴びて早すぎる就寝を防いでいます。日中もその方の状態に応じて臥床して頂く時間も作っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は利用者様毎にファイルして、いつでも確認出来るようにしており、追加変更薬に関しても考えられる副作用について全職員が別紙でも再度確認出来るように努めています。また、誤薬の無い様に職員2名で指さし読み上げ確認をしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や生活歴を把握して、場面場面で役割を持って頂く事で、生き生きと生活されています。お好きな読書、歌、すうじ盤等も楽しみ事の一つになっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、午前と午後はサンデッキの散歩を取り入れて、身体でも季節を感じて頂いています。また、毎月1回は全体外出でランチに出掛けたり、季節のお花見に出掛けたり、ご家族さんのご協力もあり利用者の皆さんの楽しみの一つにもなっています。	ホームのサンデッキを散歩することで、季節の草花や木々を観察できるつくりとなっている。その他、周辺の公園への散歩や、ドライブなどにも積極的に出掛けられている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理まで出来る方はいらっしゃいませんが、外出時には代表して支払いをして頂く等、お金を使う機会を作る様に支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ年賀はがきを送ったり、遠方からのご家族からの贈り物には、電話でご本人からや職員が代行してお礼を伝える機会を作り、継続した関係作りに努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは調理中も利用者様とのコミュニケーションが図れるようなキッチンの配置で自然とキッチン周りに集まって会話を楽しんだり、調理の音や匂いからも生活感を味わって頂いています。また、リビングの飾りやご家族の持参して下さる花々にも季節を感じて頂いています。	玄関より楽しみや清潔感を感じる装飾がなされている。キッチン周りは、人が集まり会話をする風景など家庭的な雰囲気であり、自然に感じられる居心地のよい共有空間作りに努められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでもテーブル、キッチン前、ソファ、和室等、ご本人の思いや状況、人間関係も考慮して柔軟に対応できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのイス、クッション、小物や季節の物、好きな芸能人のポスター等も持参して頂いています。また、面会時に写真撮影させていただいたご家族や知人との写真を大きく印刷して、各居室に飾りいつでも見て頂けるようにしています。	家族と撮られた写真などを大きくし、ラミネートして飾られたり、居室内には思い出のある品物、ポスターなども自由に持参できるようにされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的な雰囲気を損なわない様に居室やトイレも分かりやすい配置とバリアフリーで安全に自立支援も出来るようになっていきます。また、遠目でも見守りしやすい間取りになっています。		